



学校だより

えのき

NO. 13 (41)



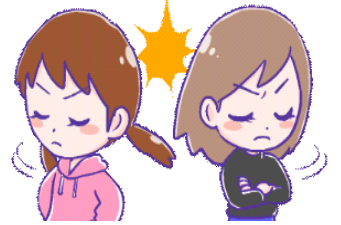
皆野町立皆野小学校

〈めざす児童像〉
笑顔で なかのよい子
のびのび たくましい子
気づき 考える子

令和3年2月26日

だんご3兄弟

かつて私が6年生の担任をしていた時のことです。クラスには大の仲良し女子二人組がいました。この二人は家も近所で、保育園も一緒、親どうしも家族ぐるみの付き合いをするほど親しくて、自他共に認める“大親友”だったのです。(ここでは便宜上、二人の名前を仮に「けいこ」「ゆうこ」としておきます。)



ところが、ある時を境に、二人はしばしば口げんかをするようになりました。そしてついには口をきかないほどの大げんかとなってしまったのです。あれほど気が合い、いつも二人で一緒にいたのに…。クラスメイトも「いったいどうしちゃったんだろう？」と心配になり様子を見守っていました。私は二人にそれぞれ時間をとって、お互いの言い分を聞いてみました。

- けいこの言い分「ゆうこは昔から口が悪い。思ったことをすげすげとと言う。私ならああいう言い方はしない。もう少し相手を気づかって口をきいてほしい。」

☆3人兄妹の末っ子であるゆうこは、自己主張や負けん気が強くてストレートに物を言う性格でした。一般的に「下の子」は誕生した時には既に兄弟がライバル的な存在であるため、こういった傾向が強くなるのはある意味必然的なことです。短所としてくよくよさせるのではなく、「あなたはあなただから、必ずしも兄弟と同じになる必要はない。」ということに分からせてあげると安心すると思います。

- ゆうこの言い分「けいこは昔から優柔不断ではっきりしない。思っていることがあるのならはっきりと言ってほしい。機嫌が悪い時は顔に出ているのに、何でもないとか言ってるけど嘘。こっちが気をつかって疲れちゃう。」

☆3人姉妹の長女であるけいこは、周囲を気づかい自分の主張を抑える傾向があり、不平不満があっても口には出さない子でした。「一番上の子」は弟や妹、家族を気づかうと共にどうすれば親が喜び、どうすると親ががっかりするのかを人一倍わかっています。むしろそれがモチベーションにもなっているので、「無理をしないで。」と言うよりも「いつもありがとう。」と伝えてあげたいです。

高学年にもなると、自分と他人の違いに気づくようになり、そこに戸惑うような場面にも出くわします。大人に近づいてきた証ですが、比較の基準はまだ「自分と比べてどうか…」というレベルなので、自分の価値観と異なる場合は「相手がおかしい」として認識するとどまり、実はこれがけんかやいじめのきっかけになることもあります。「人には人それぞれ…」「みんな違ってみんないい…」などと客観的な比較ができるまでにはもうしばらくの年月が必要なのです。

教室では二人とも「先生わかりました、私は大丈夫。でも(関係修復は)たぶん無理。」と口を揃えたように言っていました。救われたのは二人とも心配りのある子で、クラスや周囲の雰囲気にも悪影響が出ないように考えてくれていました。しかし、休み時間やグループ決めの時など、別に親しくなった友達とそれぞれ行動するようになり、そのまま卒業を迎えました。私は、「今はまだ理解できないかもしれないけど、そのうちわかる時がきっと来る。せっかく仲良くしてきたのだから、二人には本当の親友になってほしいんだよ。」と伝えてお別れしました。



8年後、この子たちの成人式に招待されました。「門倉先生っ！」晴れ着姿のけいこことゆうこが駆け寄ってきて笑顔で話しかけてくれました。会話が弾んでいく中で、「二人の関係は復活したの？」と尋ねてみると、「はいっ、私たち最強コンビです。あの時は若気の至りで、すみませんでしたあ」だって…。私の胸には込み上げてくるものがありました。が、「まだ20歳なのに若気の至りって…」3人で大爆笑したのでした。

- ☆「一番上のお姉ちゃんの言うことを聞きなさい。」とか「一番下の弟のために譲ってあげなさい。」などと「上や下の子」が優遇される機会があるのに対して、「真ん中の子」にはそういった機会がどうしても少なくなりがちです。時には親を独り占めできる時間を作ってあげるのもいかがでしょう。
- ☆一人っ子は一番上と一番下の要素を併せ持つ傾向にありますが、子供同士の関係づくりについてはどうしても経験が不足します。自分で一つ一つ経験を重ねさせてあげることが大切です。

